

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2018 年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2019 年 4 月 14 日 提出

1. 研究課題名	
元禄歌舞伎のデジタル再現のための基礎的研究 (英文標記: Fundamental research for digital reproduction of Kabuki in Genroku era)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな) いわい まさみ	所属機関・職名
岩井 眞實	名城大学・教授
3. 研究分担者 (合計: 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
鳥越 文蔵 (とりごえ ぶんぞう)	早稲田大学名誉教授
佐藤 恵里 (さとう えり)	高知女子大学名誉教授
東 晴美 (ひがし はるみ)	群馬女子大学講師

4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
<p>歌舞伎は、京都が発祥の地である。その歴史を辿ると、元禄歌舞伎時代があり、世界の演劇全体に比べても、最も洗練された演劇が京都を中心として展開していたことに気づかされる。しかし、元禄歌舞伎には、映像もなく、台本が存在している作品もただ 1 点が現存しているに過ぎない。しかし、演劇興行によって生み出された周辺資料は、数多く残されており、これらを有機的につなぎ合わせれば、当時の演劇の実態を再構築できる。これまで、それらの資料は単なる資料群として個別に扱われることがほとんどであったが、デジタル・アーカイブの上に構築する有機的な資料群は、いわば三次元の世界に再現を可能である。</p> <p>対象となる資料は、絵入狂言本、役者評判記、あるいは、歌舞伎番付である。なかでも、絵入り狂言本は演劇舞台を表現した絵画とともに、筋書、出演者の配役などが詳細に記載されており、2018 年度は、絵入狂言本を中心に、まずは網羅的なデジタル・アーカイブ型研究として推し進め、そこに含みこまれる絵画表現とテキスト表現から立体的に情報を抽出して、元禄期の演劇舞台では何が行われていたかを可視化する。</p> <p>その基礎作業として、2018 年度は国内外に存在する絵入狂言本の所在調査を終了する。併せて、各所蔵機関の書誌調査をも行う。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

2018年度の成果として、国内外に存在する絵入狂言本の所在調査をほぼ終了したことがまず挙げられる。この後個人蔵のものが発見される可能性はあるにせよ、主な所蔵機関の所在調査は99%完結したといってよい。

この所蔵調査をもとに、ARCの「絵入狂言本データベース」にその画像をアップロードする作業をすすめた。このデータベースは国文学研究資料館「新日本古典総合データベース」、国立国会図書館デジタルコレクション、東京大学霞亭文庫の画像データベース等、公開された機関の画像データベースにリンクが張られている。また、画像をネット上に公開していない機関についても、内部閲覧用に画像を閲覧できる仕組みにしている。これまで異なる機関に所蔵される同一題名の狂言本を並べて対比することは困難であったが、このデータベースによってPCやタブレット上で並べて閲覧することができるようになった。

所在調査の結果を承けて、各所蔵機関の書誌調査を進めている。書誌調査については、研究代表者および研究分担者が過去に個別に行った網羅的な書誌調査記録がある。これらをもとに、統一的な書誌データを作製する作業に入っている。そのために各所蔵機関への再調査を行った。

また、新出・未見の絵入狂言本数点についても実見の上書誌データをとることができた。

6. 研究業績

(1) 著書

・『芝居小屋から—武田政子の博多演劇史—』、共著、2018年6月、海鳥社、狩野啓子、岩井眞實、1-244頁(全頁執筆)

・『日本の舞台芸術における身体 死と生、人形と人工体』、共著、2019年3月、晃洋書房、ボナヴェントゥーラ・ルペルティ・橋本裕之・佐藤恵里・岩井眞實 他、161-182頁(「歌舞伎の場面転換と俳優の身体」執筆)

・『東アジア古典演劇の伝統と近代』、共著、2019年3月、勉誠出版、毛利三彌・天野文雄・岩井眞實 他、190-209頁(「近松の世話物と西洋の市民悲劇」執筆)

・『木下曾我恵石聚路』[未翻刻戯曲集・25]、共著、2019年3月、国立劇場調査養成部、埋忠美沙・岩井眞實・佐藤かつら・倉橋正恵・日置貴之・寺田詩麻、70-95頁

(2) 論文

・「見得の発生に関する論点整理—擬勢から見得へ—」、単著、2018年10月、藝能史研究会・『藝能史研究』第223号、16-30頁、査読有

(3) 研究発表等

・「日本演劇と文化現象」、2018年7月、日本演劇学会全国大会、神戸松蔭女子学院大学、中尾薫・武井協三・高橋則子・岩井眞實、査読有

・「Revenge through Ages: Politics of *Yoshitsune and the Thousand Cherry Trees*」、2018年7月、国際演劇学会 IFTR(The International Federation for theatre Research)、University of Arts in Belgrade, Belgrade、岩井眞實・小田中章浩、査読有

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

・「会議名」、開催場所、年月、来場者数、共催等機関名

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

・研究業績名、発表場所等、期間

(6) 受賞学術賞

・授与機関名、受賞名、タイトル、受賞年月

(7) 科学研究費助成事業

・「壁を壊す—国際的な日本演劇研究のための拠点の構築」、基盤研究◎、2017年4月—2019年3月、役割(代表)

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

・研究課題名、資金制度・研究費名、開始年月—終了年月、役割(代表・分担)

(9) その他